

# 藤沢市「大学生と考えるこどもまんなかワークショップ」実施報告

2024年（令和6年）11月

藤沢市子ども青少年部子育て企画課

## 目次

1	ワークショップの開催概要	2
(1)	実施の目的	2
(2)	開催タイトル	2
(3)	対象者	2
(4)	申込状況	2
(5)	参加者	2
(6)	開催日時	2
(7)	開催場所	2
2	ワークショップ実施報告	3
(1)	開催の流れ	3
(2)	第1部「こどもまんなかに向けた市内の取組」の実施報告	3
(3)	第2部「ワークショップ」の実施報告	4
(4)	こどもまんなかの場を広げるためのアイデア	6
参考資料（参加者アンケートの回答結果）		10
(1)	第1部「市内の取組紹介」の満足度	10
(2)	第2部「ワークショップ」の満足度	10
(3)	第2部「ワークショップ」の満足度の理由	11
(4)	特に実現してほしい提案	11
(5)	第3部の満足度	12
(6)	全体を通しての感想や、運営面でお気付きの点など	12
(7)	回答者の性別	13
(8)	回答者の年齢	13

# 1 ワークショップの開催概要

---

---

## (1) 実施の目的

---

藤沢市の子ども・若者に関わる参加者がワークショップでの対話を通して、子どもまんなかの取組を広げていくための具体的なアクション（連携/仕組み/取組）を考え、(仮称) 藤沢市子ども計画のこどもの意見反映の方法を検討するための参考情報を得ることを目的として実施した。

## (2) 開催タイトル

---

大学生と考える 子どもまんなかワークショップ

## (3) 対象者

---

子ども・若者と関わる市内在住者を対象（子ども・若者本人の参加を含む）

## (4) 申込状況

---

23 人

事前申込制。7月25日号広報ふじさわ、市ホームページ、市の公式LINE等を通して告知。

## (5) 参加者

---

参加者：14人、大学生インターン9名

見学者：4人※うち、子ども3人

## (6) 開催日時

---

2024年（令和6年）8月24日（土）13：00～16：00

## (7) 開催場所

---

藤沢市役所 本庁舎7階 会議室1、2

## 2 ワークショップ実施報告

### (1) 開催の流れ

○ ワークショップ当日の実施スケジュールは次の通り。

時間	実施内容
12:40	開場
13:00	第1部 こどもまんなかに向けた市内の取組紹介
13:30	第2部 ワークショップ
15:30	休憩
15:40	第3部 参加者交流会（ワークショップの模造紙の展示会）
16:00	終了

### (2) 第1部「こどもまんなかに向けた市内の取組」の実施報告

○ 第1部の「こどもまんなかに向けた市内の取組」では、第2部のワークショップで様々な立場の参加者が意見交換を行うための前提条件となる知識を共有することを目的として、次の内容を共有した。



- これまでおとなが中心になってきた社会を「こどもまんなか社会」へと変えていくためには、こども・若者を支援対象と捉えるだけでなく、ともに社会をつくるパートナーとして意見を聴き、それぞれの活動に反映させる取組を広げることが必要である。
- その根拠となるのは、令和5年4月施行された「こども基本法」で、「全てのこども・若者について、その年齢及び発達に応じて自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会や多様な社会的活動に参画する機会が確保されること（第3条）」が求められている。
- こどもの意見を聴き反映する意義として、こどものニーズをそれぞれの活動に的確に反映することでこどもの参加が増えること、こどもの意見が反映されるプロセスの中で、感謝される経験や課題に対して変化を起こす成功体験になり、こどもの主体性や自己肯定感を高めることにつながる。
- こどもの意見を反映するプロセスは5段階あり、1.企画（テーマ設定）、2.事前準備、3.意見を聴く、4.反映、5.フィードバックの一連のサイクルとなっている。

○ ワークショップでの意見交換の参考になる市内の取組として、次のこどもの意見聴取に関連する取組事例を紹介した。

- 2023年7月と8月に本市子育て企画課実施した「子ども・若者の意見表明を考えるワークショップ」の取組事例。こどもが意見を言しやすい方法のまとめとして、対面の場でこどもに意見を聴くポイント「気軽に、手軽に、ついでに」などを紹介した。
- 2023年に実施した支援者ヒアリングで把握した、「子どもや若者の意見を聴く具体的な例」として、「安心できる身近な場所で」「話しやすい企画やテーマ設定」「気軽に回答できるようハードルを下げる」などの、意見を聴くときのポイントを紹介した。

**こどもが意見を言しやすい方法（ワークショップまとめ）**

対面の場のポイントは「気軽に、手軽に、ついでに」  
 ⇒話しやすい雰囲気なら、対面で集まって話をしたい  
 ⇒学校などの場や行き帰りのついでなどに意見を言う場があるといい  
 ⇒家からアクセスのよい場所、各地域の市民センターなど

非対面の場合は、  
 ⇒意見箱、Google等のアンケート、SNSの場合は匿名がよい  
 ⇒身近な大人をとおして意見を上げられる方法

会場に集合する場合は、  
 ⇒参加するには、身近な大人からの一押しが必要  
 ⇒スタッフ以外の大人はいないほうがよい



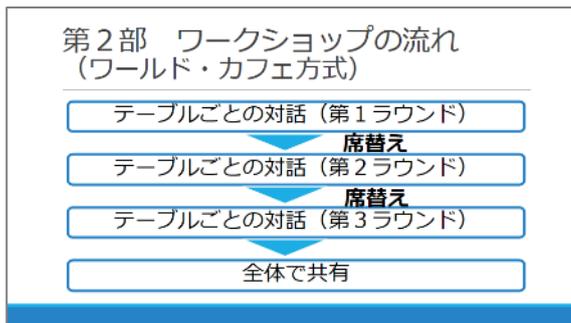
**支援者ヒアリング**  
 子どもや若者の意見を聞く具体的な例

- 安心できる人や身近な場所で意見を聞く  
 （普段の場や関係性を築いている人が聞く）
- 話しやすい企画やテーマの設定  
 （子ども中心の企画運営、身近なテーマ、選択肢）
- 気軽に回答できるようハードルを下げる  
 （定期的に聞く、匿名で回答、SNS等）

○ 第1部の最後に、参加者が2～3人で1組となり、こどもの意見聴取に関する市内事例を聞いて印象に残った点について感想を共有した。

### (3) 第2部「ワークショップ」の実施報告

- 第2部のワークショップは、問いごとに参加者が入れ替わる「ワールドカフェ方式」で、意見交換を行った。
- ワールドカフェとは、参加者の組合せを変えながら、小グループで話し合いを続けることで、参加者全員で話し合っているような効果が得られ、多様な参加者のアイデアがつながりあって、新しいアイデアや気づきが生まれやすくなる対話の手法である。



- 5つのグループの中に、大学生インターンがファシリテーターとして入り、グループごとに対話を行った。グループでの対話は、次の3つの問いに沿って行われた。参加者は、自分の意見をポストイットに書き、模造紙に貼りながら、意見交換を行った。



- 対話1：あなたが子どもと接している現場で、子ども・若者の意見を取り入れる仕組み（例えば子ども主体で企画、運営する活動）はありますか？
- 対話2：市内に「こどもまんなか」の場を増やすために、あなただったら何をしますか？
- 対話3：「こどもまんなか」の場を藤沢市全体に広げるために、どんな連携や市全域の取組、仕組みが有効だと思いますか？

- グループ単位で、「藤沢市全体にこどもまんなかの場を増やすアイデア」の中から、効果が高いと思うアイデアに対して、投票を行った。



- アイデア投票：「こどもまんなか」の場を藤沢市全体に広げるために、どの提案が効果が高いと思いますか？

- 最後に、「藤沢市全体にこどもまんなかの場を増やすアイデア」の全体共有の時間を設けた。グループごとにワークショップで作成した模造紙を見せながら、アイデア投票数の多かった提案を中心に全体に発表した。



#### (4) こどもまんなかの場を広げるためのアイデア

- ワークショップで出された、市内に「こどもまんなか」の場を広げるためのアイデアについて、ア. こども・若者の意見聴取全般、イ. 地域（自治会、町内会など）の活動、ウ. 学校の活動、エ. 市役所の活動、オ. その他に分類し、ワークショップで話合われた主な意見を紹介する。
- なお、主な意見の内容は、ワークショップの中で参加者がポストイットに記入した内容を生かしているが、誤字や脱字については修正を行っている。

##### ア こども・若者の意見聴取全般に関すること

対話1：こどもの意見を取り入れていない活動	対話2：「こどもまんなか」に変わるための、具体的なアクション	対話3：市内に「こどもまんなか」な場を広げるためのアイデア
アンケートをしたら結果をフィードバックする場があるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールなどで返答できる仕組みを活用（Google フォーム、公式LINEを活用）。</li> <li>・アンケートに対し結果報告して、それに対する声を集めるようにする（市のHPを活用）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロッカー、トイレに貼り紙…年齢性別関係なく誰もが見る場所。</li> <li>・チラシ。</li> <li>・新聞の枠を購入し活用。</li> <li>・イベントの場を活用して取り組み、コミュニティのPR。</li> <li>・みらい創造財団との連携を密にする。</li> <li>・広報の手段と効果を考え、「誰にどうやったら届くか」を意識。</li> </ul>
インターネットでのアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会があれば回覧板や掲示板を利用する。</li> <li>・藤沢市主導で「町内子ども部会（18歳迄）」を開く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧板にイベント情報を入れやすい仕組みづくり。</li> <li>・市役所や市民センター、公民館、自治会、町内会、学校などと連携をとる。</li> <li>・公募で年代別の子どもや若者を募る。</li> <li>・意見を聞く場を公に設ける。</li> <li>・テーマ別で意見を聞く。</li> <li>・藤沢市だけが主導権を握らない。数多くのイベントをNPOや民間主体で行う。</li> </ul>
こどもの意見の解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援する大人同士の交流できる場をつくる。</li> <li>・居場所運営者、ファシリテーターの養成</li> <li>・こどもアドボカシーの研修を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会をオンラインで実施。</li> <li>・他市の事例を学ぶ。</li> <li>・駄菓子屋の復活とカウンセラーの配置。</li> </ul>

## イ 地域(自治会、町内会など)の活動に関すること

対話1:こどもの意見を取り入れていない活動	対話2:「こどもまんなか」に変わるための、具体的なアクション	対話3:市内に「こどもまんなか」な場を広げるためのアイデア
町内会の活動は大人の意見で物事が決まるため「こども部会」を作るべき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の部活や生徒会との関わりをつくる。</li> <li>・「こどもまんなか」の方針を市から町内会に伝達し、当然やるものとして位置付ける。</li> <li>・町内会にどれだけこどもがいるのかを把握する。</li> <li>・こどもが企画運営に関わる場づくり。</li> <li>・自治会がどのような機関なのかをこどもに教える機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会と学生をつなげるために、生徒会や部活とつながる。</li> <li>・地域の文化、スポーツサークルと提携して一緒に活動する(例:町内の合唱サークルと合唱部等)。</li> <li>・こどもに家族以外のメンターをつけられたら。→こどもの居場所はいくつあってもよい。各地域に居場所をつくり、広めていきたい。</li> <li>・藤沢市を主導とした地域ごとの「こども部会」を設置し、意見は市長に届くようにする。町内会同士の関わりをもっと増やす。例) 合同のお祭りや運動会、定期的な報告会など。</li> </ul>
子ども会が無くなりつつある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の団体が企画しているイベントを活用する。青少年やおやじの会など。</li> <li>・作る(入る)メリットを設ける。制服の譲り合い、集団登下校で安心安全。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画を一緒に考える機会を作る。やりたいことを聞く。</li> <li>・子どもが少数だからといってあきらめない。</li> </ul>
自治会のイベントやお祭りなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの枠を増やす。</li> <li>・子ども会に「自治会をまきこもう」と働きかける。</li> <li>・自治会館で子どもの利用時間をつくる。</li> <li>・大人が考えて行うイベントも必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツクラブなどのコミュニティとのイベント開催。</li> <li>・小学校での自治会の仕組みの周知。</li> </ul>
イベントでどんなゲームをやってみたいのかを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祭り開催時にきてくれた人にアンケートをとる。</li> <li>・子供が多くの時間、安心安全の場として過ごしている学校を經由して地域の人が関わる(コミュニティスクールの推進)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢市に祭り企画課を作って、各自治体や学校と協力する。</li> <li>・市役所や市民センター、公民館、自治会、町内会、学校などと連携をとる。</li> <li>・公募で年代別の子どもや若者を募る。</li> <li>・意見を聞く場を公に設ける。</li> <li>・テーマ別で意見を聞く。</li> <li>・自治会など地域で事情を確認して、子どもを見守る。関わっていき、市全体につなげる。</li> </ul>

## ウ 学校の活動に関すること

対話1:こどもの意見を取り入れていない活動	対話2:「こどもまんなか」に変わるための、具体的なアクション	対話3:市内に「こどもまんなか」な場を広げるためのアイデア
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内に外部カウンセラーを配置。</li> <li>・スクールサポーターのような仕組みを作り校内に配置。</li> <li>・教師以外の相談できる大人を学校など身近な場所に配置。校内に居場所カフェを各校に配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールの推進。</li> <li>・他の学校のカウンセラーにも相談できる仕組み。</li> <li>・先生を目指す大学生を学校に配置。</li> </ul>
中学校の校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が他学生の代表となり、先生に意見する。</li> <li>・目安箱の設置アンケートやの実施を通し、こどもが意見を出せる場を作る。 →「目安箱の内容を先生に伝えても毎度却下される」という生徒会経験者の声も。 →却下されても、意見を束にし、継続的にしぶとく伝えることが大切」という意見も。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会と職員組織のつながりをつくる。</li> <li>・生徒会と町内会で定期ミーティングを実施し、市へ報告。 →生徒会とつながるためには、多忙な学校職員への接触が不可欠、やや非現実的か？</li> </ul>
学校の校則の多様化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で SNS を使ってアンケート。</li> </ul>	
学校のカリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の一部を児童と生徒で考える。</li> <li>・正解のないことを考える。</li> <li>・本音トークをする。</li> <li>・アンケートをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の学校で実践、子どもが学びたいことを聴いて授業作りをする。</li> <li>・各学校に広める、伝達する。</li> <li>・何かをするという目的を持たずに過ごせる居場所をつくる。</li> </ul>

## エ その他

対話1:こどもの意見を取り入れていない活動	対話2:「こどもまんなか」に変わるための、具体的なアクション	対話3:市内に「こどもまんなか」な場を広げるためのアイデア
マイナンバーなどの役所手続きが難しく、一方的な雰囲気がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YouTube などの動画を作成する（学生スタッフの起用）。</li> <li>・回覧板や広報にアンケートURLを記載して意見を収集する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン上の広報活動を増やす。 →アンケートはもちろん、防災情報やイベント宣伝を行ってもよい。 →みてもらうため、藤沢市にゆかりのあるインフルエンサー、有名人に出演を依頼する。</li> <li>・「ついで」となり得る場所にアンケートのQRコードや市の取り組みを掲示（例：駅、バス停、地域のスーパー、商店街等）。</li> </ul>
情報が届かない子、居場所に来ない子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃん訪問のように、こどもへの訪問をする専門の職員を導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営者、ファシリテーターの教育訓練の場を作る（専門性ではなく教育の場）。</li> </ul>
自分の子どもに対して意見を聴けていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの話を聴き、やったことが良ければ褒める。</li> <li>・「なんでも言って」というスタンス。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のような会や講座に子どもを連れてくる。</li> </ul>

<p>防災をどう考えているか聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練だけでなく、授業で防災に関して学ぶ機会を設ける（交通安全教室の防災 Ver.）。</li> <li>・防災訓練を学校でも行う。自主的に動けるように（避難訓練のその先の練習も含む）。</li> <li>・ファミリーサポートキッズで話題を取り上げ、新たな気付きを市に報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡の防災カードゲームを学校で行う</li> <li>・ボーイスカウトと連携…キャンプ知識が増やせる。</li> <li>・役所の防災課や自衛隊といった防災に詳しい人物を招き教えてもらう。</li> </ul>
<p>思春期の時期に意見を言いにくい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を聴いてもらえるような場所づくり</li> <li>・人を変える、意見を聴く方法を考え実行する、信頼関係を築く。</li> <li>・親以外など、目立たずに意見を言えるツール。</li> <li>・男の親は女の子の対応が難しい。</li> <li>・匿名。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターなどを利用して広める。</li> <li>・子どもの意見を聴く専門家。</li> </ul>

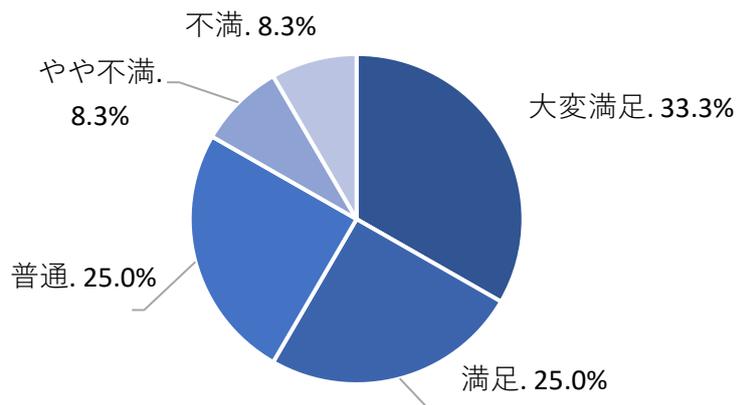
## 参考資料（参加者アンケートの回答結果）

### （1） 第1部「市内の取組紹介」の満足度

第1部の満足度について、「大変満足」が最も多く33.3%、次いで、「満足」と「普通」がそれぞれ25.0%、「やや不満」と「不満」がそれぞれ8.3%となっている。

問1 第1部「こどもまんなかに向けた 市内の取組紹介」について、満足度はいかがでしたか。（1つだけ）  
（回答数:12件）

図表 1 第1部の満足度



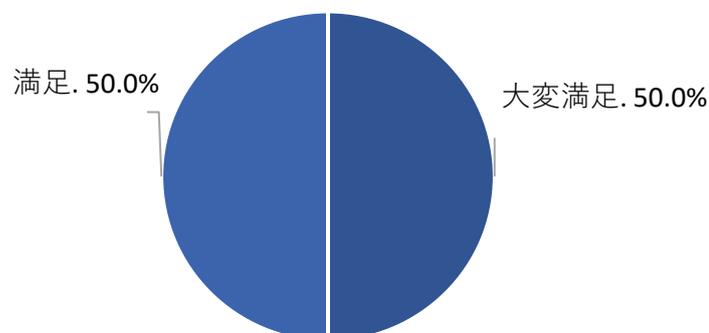
### （2） 第2部「ワークショップ」の満足度

第2部の満足度について、「大変満足」と「満足」がそれぞれ50.0%となっている。

問2 第2部「ワークショップ」について、満足度はいかがでしたか。（1つだけ）

（回答数:12件）

図表 2 第2部の満足度



### (3) 第2部「ワークショップ」の満足度の理由

---

問3 第2部「ワークショップ」の満足度について、その理由を教えてください。(自由記述) (回答数:12件)

第2部の満足度の理由について、次のような意見をいただいた。

- 様々な意見を聞くことができ、他の人の考え方を否定せずにアイデアを出すことができました。年齢や職業の違う人々との交流も良かった。
- 子供に関心を持つ学生と話すことができて良かった。さまざまな考え方があることは今後の地域活動に役立つと感じた。
- 時間を有効に使う工夫が感じられたが、進行に制約を感じることもあった。
- ワークショップのシステムが初めての経験で新鮮だったが、具体的な考えがまとまらず意見を出しにくかった。自分自身の認識不足もあった。
- 様々な交流から他者の意見を聞く機会を得て、自分自身の学びとなった。

### (4) 特に実現してほしい提案

---

問4 グループ内で投票した、藤沢市に「こどもまんなか」が広がるための提案の中で、特に実現してほしいと思う提案はありますか。理由を含めて教えてください。(自由記述) (回答数:12件)

特に実現してほしい提案について、次のような意見をいただいた。

- 駄菓子屋の復活は、子どもたちの学校では見られない様子や家庭環境に気づく場所として役立つと感じている。
- ロッカーやトイレへの貼り紙。
- 生徒会と町内会が連携し、市長に提案するような取り組みを。
- 学校には先生以外の相談相手を配置してほしいと考えている。年齢の近い人と話すことが望ましいとし、自身の経験から共感を得られる相手が子どもたちにとってより相談しやすいと感じている。
- 「こどもまんなか」理念を市全体で広く周知することを希望している。

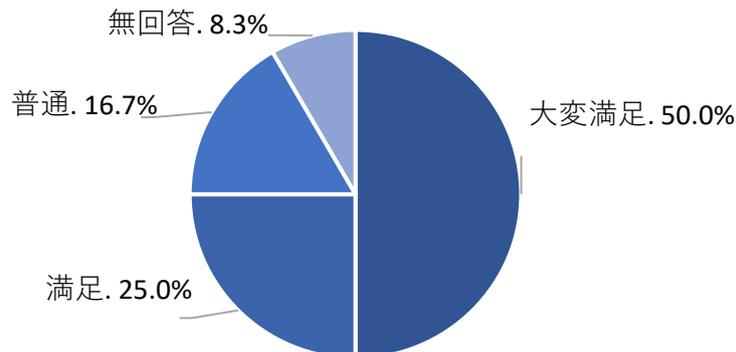
## (5) 第3部の満足度

第3部の満足度について、「大変満足」が最も多く50.0%、次いで、「満足」が25.0%、「普通」が16.7%、「無回答」8.3%となっている。

問5 第3部「参加者交流会」について、満足度はいかがでしたか。(1つだけ)

(回答数:12件)

図表 3 第3部の満足度



## (6) 全体を通しての感想や、運営面でお気づきの点など

問6 全体を通しての感想や、運営面でお気づきの点などをご記入ください。(自由記述)

(回答数:12件)

全体を通しての感想や、運営面でお気づきの点などについて、次のような意見をいただいた。

- 子育て世代の人が極端に少なかったと感じた。今、子育てをしている人の意見と、子育てが一段落し、仕事として子どもへ関わっている人の意見では全く違う点が見えてくるため、子育て世代にもっと参加してもらいたい。
- 話足りないくらいの会だった、大学生や様々なジャンルの人と話すことができ良かったと感謝している。
- 次回以降も開催し、提案を絞り実装するまでを全体の構成としてほしかった。
- 時間が細切れで慌ただしかったと感じた。
- 一部の参加者が自分の考え方を絶対的とし、他の人の意見を否定していた。会の趣旨が伝わっていなかった可能性がある。

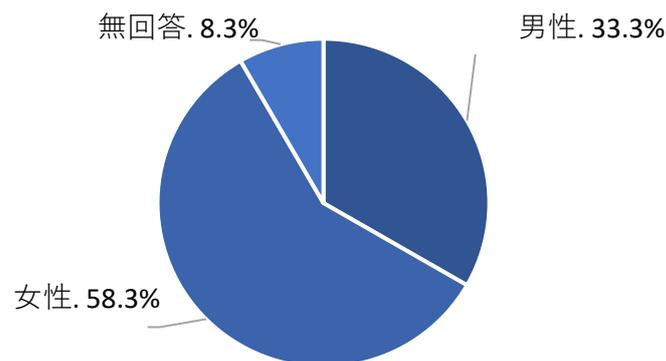
## (7) 回答者の性別

回答者の性別について、「女性」が最も多く 58.3%、次いで、「男性」が 33.3%、「無回答」が 8.3%となっている。

問7 性別について、ご協力いただける範囲でご記入ください。(1つだけ)

(回答数:12 件)

図表 4 回答者の性別



## (8) 回答者の年齢

回答者の年齢について、「50～59歳」と「60歳以上」がそれぞれ 33.3%、次いで、「40～49歳」が 16.7%、「30～39歳」と「無回答」がそれぞれ 8.3%となっている。

問7 年齢について、ご協力いただける範囲でご記入ください。(1つだけ)

(回答数:12 件)

図表 5 回答者の年齢

